

⑬ Argument Text Generation System(Dulcinea)

T.Ikeda*, K.Hagiwara, Y.Kubo(ICOT,日本)

A.Kotani(三菱電機, 日本)

発表要旨

主張の正当性を述べる文章の生成では、システムの立場や信念を明確に表現することと、適切な戦略に基づいて文章構造を生成することが必要である。我々はこのような文章を立論テキストと呼び、システムの立場や信念を明確に表現し、しかも結束性の高い立論テキストを生成するために必要な戦略を明らかにした。また、この戦略に基づいて立論テキスト生成実験システムDulcineaを開発した。

この戦略は立論テキスト生成という限られた領域における文章生成に対して適用可能なものであるが、我々は「どんな関係、プラン、スキーマが結束性の高い文章の生成に必要であるか？」という問いに対する一つの答であると考えている。

このシステムは与えられた立論ゴールを正当化するためのテキストを生成する。生成されたテキストはシステムの信念や立場を反映している。テキストの構造はFTS (Functional Text Structure) と呼ばれる形式で表現する。FTSは立論の意味内容だけでなく、システムの立場、判断、言語的な制約をも表現することができる。

質疑応答

質問：立論テキストの構成要素として4つをあげたが、他にも構成要素はあるか。

回答：実際に人間が書いたテキストには様々な要素が含まれている。今回は意味内容の生成が容易なものを抽出した。適切な意味内容を持たなければよい文章は生成できないので、意味内容の生成をもっと研究する必要がある。

質問：このシステムを汎用の生成ツールとして使うことについてアイデアはあるか。

回答：文章のタイプが限られているし、意味内容の生成が貧弱である。この研究は自然言語生成のhow to say領域を扱ったものであるが、what to say領域の研究やさらにその先のintention等の取り扱いなど、まだまだ基礎的な研究が残されている。

質問：もし、「自分の両親を殺すべきか」というゴールを入れたらそれに関するファクトがなくても何か生成できるか。

回答：自分の両親を殺した場合に何が引き起こされるかというルールと引き起こされた事態に対する判断さえあれば生成できる。ファクトが必要な場合でもシステムが仮定して立論を進める。